



## 小永井 征也さんを悼む

縣神社 宮司 田 鍬 到 一



左から二番目が小永井さん

令和の御代となり、初春の立復る如月も過ぎて弥生に入ると、突然に小永井征也さんが偲ばれて、懐かしくその傍が浮かんで来ました。一年前に「木花桜」が咲き始めたその日が征也さんと永久の別れになりました。

五十年前に私が宇治に赴任してきた頃、先々代の小永井勘一さんに随分と御世話になり可愛がってもらいました。そして私が宮司に就任して間もなく征也さんは県神社の総代となり、それから二十余年の間は神社の為に力を尽して頂きました。誠に有難く感謝の他ありません。

平成の三十年の丁度半ばをして県神社の歴史は維新復古への転換期となって、征也さんはその推進役の一人として大いに活躍されました。

また征也さんは国際派の文化人であって、我慢強い弱音を吐かない人でもありました。私とは歳も近く同郷の誼もあり、旅の友をし、ある時は軸物のオークションを競い合うことも屡々でありました。

今は幽明の境を異にすることになりましたが私にはもう少し遣り残している事もあり、それを片づけなければなりません。征也さん、隠世では碁の勉強をしておいて下さい。小生もその内そちらへ行きますので、その折には勘一さんを交えて三人で囲碁を楽しみましょうか。

— さようなら — 征也さん  
令和二年三月二十日





# さくや 縣神社 開耶会

木の花会 上田邦夫



昨年の秋、県祭り梵天講の有志から「縣神社の行祭事のお手伝いがしたい」との申し出があった。

年初めの「初あがた祭り」に始まり、「節分祭」、「県祭り」、「大幣神事」、「献茶祭」、「七五三」、「事始め」と当神社の行祭事は多い。現在後援会として、「縣神社 木の花会」の存在があるが、実働部隊としての人員は手薄だ。そこへ、彼らからの嬉しい申し出である。

早速、その有志の集まり（団体）名を、ご祭神の木花開耶姫からとった、「開耶会（さくやかい）」と名付け、揃いの法被を拵えて活動をスタートさせた。

まずは、12月31日の大晦日23時30分より新年にかけての初詣に合わせ、お抹茶の振る舞いを実施することにした。お茶屋さんから高級抹茶をご提供いただき、先着300名を対象に、境内に茶室を（テント内に）設け、焚火とストーブで暖をとって、静寂の中、新年に相応しいおもてなしを行った。

神社としても初めての試みであったが、予想に反し、320杯分のお抹茶が2時間あまりで、好評のうちに終了した。「開耶会」の最初の取組は大成功であった。

続く1月5日の「初あがた祭り」では神輿の設営と巡行に参加、「節分祭」においても会場設営や受付などの奉仕をおこなった。

木の花会と開耶会の両輪が上手く噛みあい、今後も神社の運営にもいい影響が及ぶと、期待が膨らむ。





# 県神社の年間行事

## 初あがた祭

毎年新年の1月5日、子供神輿、獅子舞（3基）が中宇治地域を巡行、門付で回る。江戸時代から数百年続き、神社にとっても重要な祭事になっている。



## 節分祭

2月3日の節分の日に厄除・招福を祈念する。平成31年からは「奉納落語会」が始まった。

## あがた祭（大祭）

初夏6月の5日、6日未明にかけて行われる全国的に有名な祭。「深夜の奇祭」、「暗闇の祭礼」と呼ばれる。平成15年に発足した梵天講が、クライマックスの梵天渡御を担う。



## 大幣神事

歴史は古く、宇治市の無形文化財第1号に指定された神事。6月8日、独立した「大幣座」が、宇治の町角々を祓う儀式をおこない、疫病が町に入らないよう道饗祭をおこなう。



## 献茶祭

11月5日、藪内家元のお献茶奉仕により斎行される。選ばれた宇治の茶師が茶壺口切を行い、宇治茶の隆盛と茶文化の護持を祈念する。祭典後、茶室棠庵と綏邦書院でお茶席が設けられ、別棟で点心も楽しめる。



## 事始め（注連縄作り）

12月13日の夜、新年に向けての注連縄（本殿用、鳥居用、大幣殿用など7本）を信者が縫う。





# 奉納 オカリナの 節分祭

木の花会  
上田 邦夫



撮影者：船曳 浩一

本年の節分祭は、好評だった昨年の「奉納落語会」に続き、オカリナ演奏によるコンサートを開催いたしました。

この日は寒い一日でしたが、オカリナが奏でる優しい調べと、哀愁帯びた音色が神社の本殿に響き渡り、加えてパーカッションとギターによる伴奏がさらに雰囲気盛り上げ、約1時間、集まられた多くの参拝者を魅了しました。“鬼”もきっと聴き入っていたに違いありません。

演奏終了後、皆様には緩邦書院で抹茶の無料接待でひと息ついていただき、福梅を提供いたしました。

節分祭の催しは今年で二回目ですが、今後も「楽しい催し」を企画して「あがたさんの節分祭」が定着するよう皆様のご支援をお願いいたします。

## 御挨拶 県神社宮司 田 鞆 到 一



このたび故田鞆敬子刀自の神葬祭にあたり寒い中お運びいただきまして誠に恐縮に存じます。また御丁重なる弔意を賜り厚く御礼申し上げます。

故人は当方に嫁ぎましてより四十八年間、家庭を守り県神社に御奉仕して、その全てを尽して参りました。

宿病との闘いは八年になりましたが一進一退で思わしくない状態が続きました。少しずつ体調は普通ではなくなっていましたけれども、昨年九月に入院するまで弱音を吐くことなく頑張り屋を通しました。

もとよりそれは皆様との御厚誼と御教示の賜物と深く感謝致しております。その皆様との沢山の思い出を抱きながら旅立って行ったものと思います。

今後とも変らぬ御指導御支援を宜しく御願ひ申し上げます。

令和二年二月二十日

